

子どもの栄養改善・貧血予防指導

(パレスチナ・ガザ地区)

2期目最終報告写真集

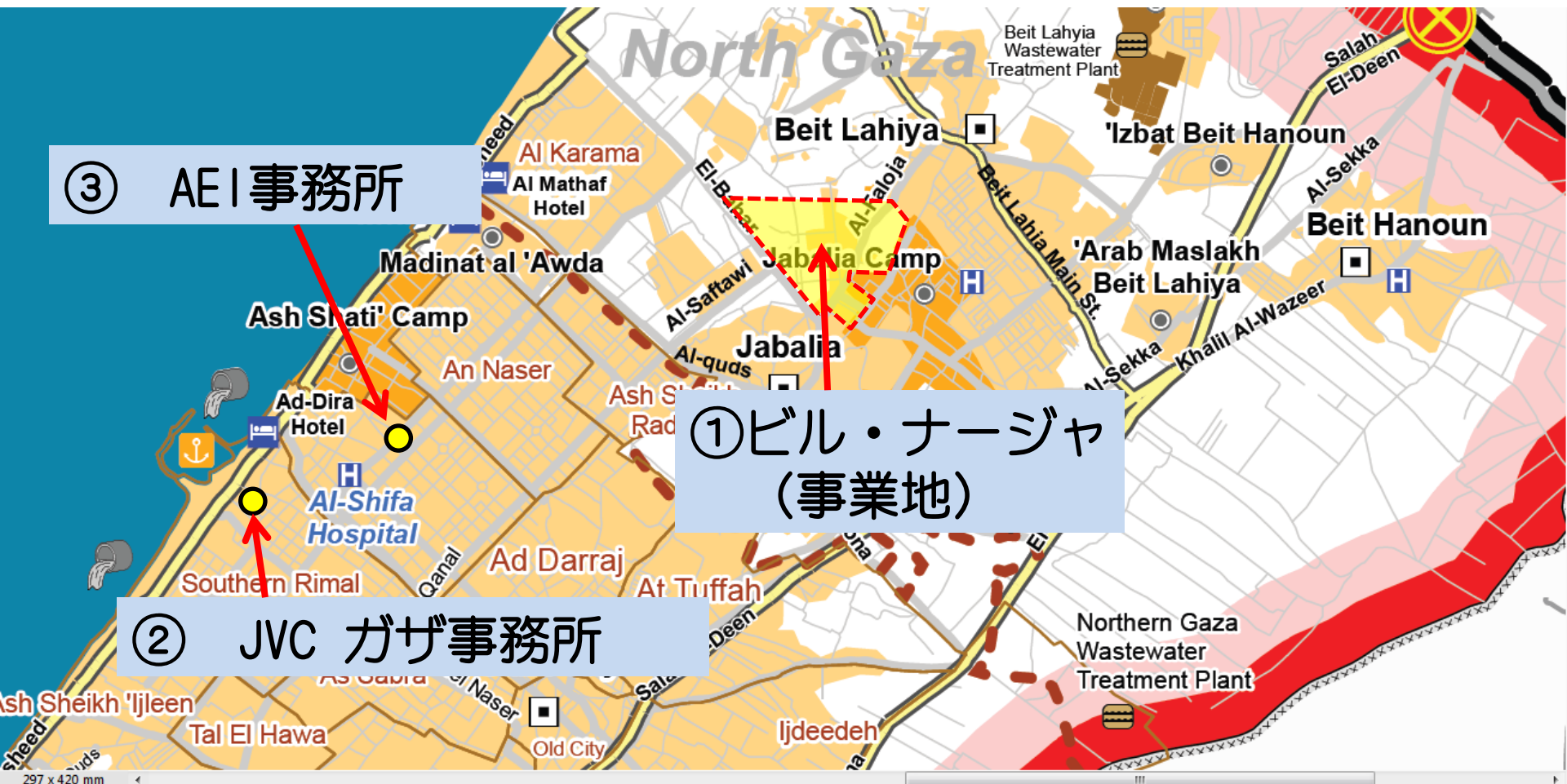
パレスチナ・ガザ地区ジャバリヤ市
ビルナージャ



2014年4月1日～2015年7月31日

ロータリーグローバル補助金、国際ボランティア貯金支援金、
アユス平和人権事業支援金、WE21ジャパン、グリーンハウス
他多数の皆様のご支援を頂いております。

プロジェクト地の地図(ガザ北部)

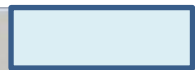


③ AEI事務所

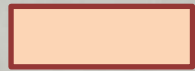
①ビル・ナージャ
(事業地)

② JVC ガザ事務所

ビル・ナー ज्याの地図



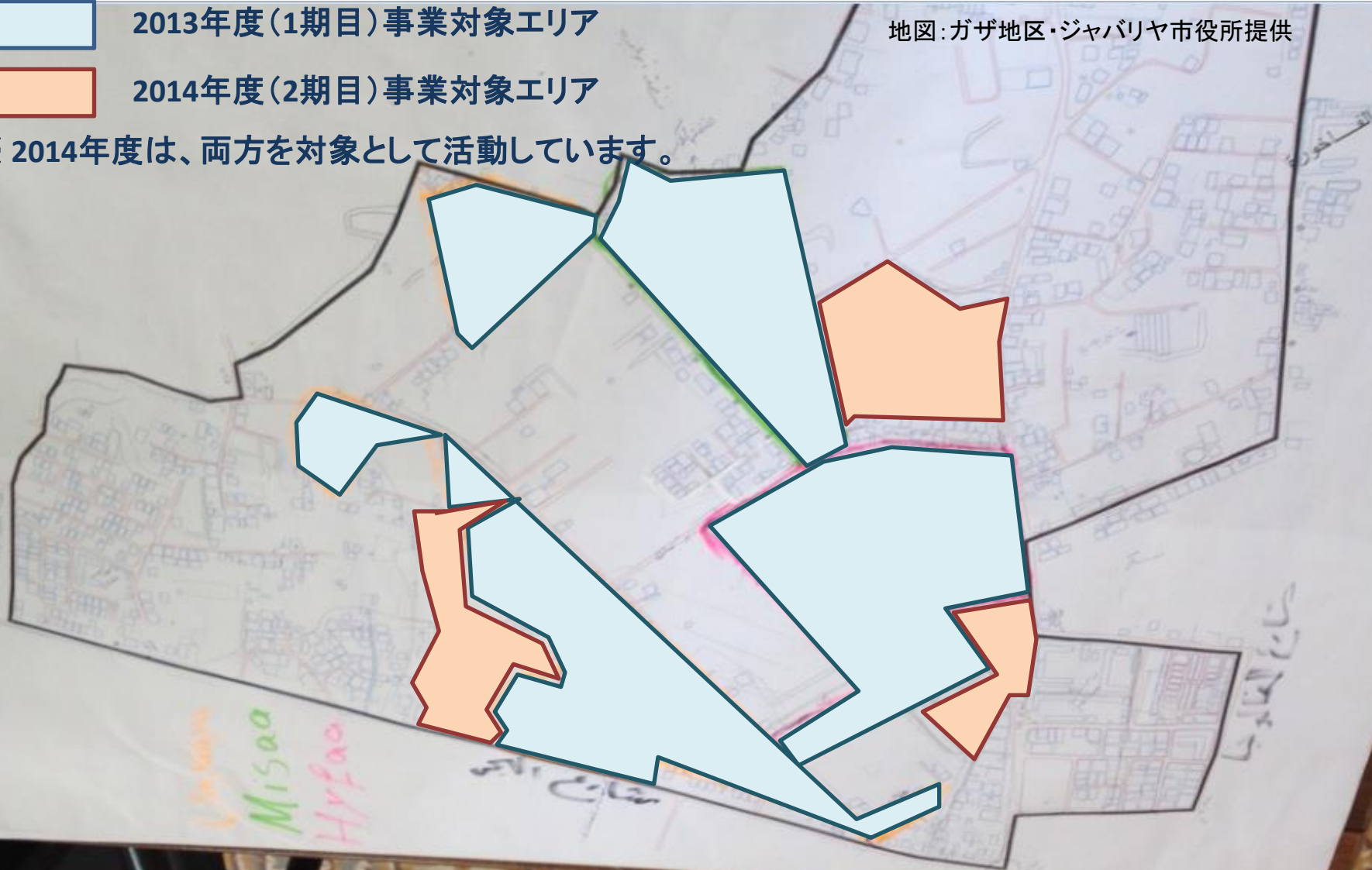
2013年度(1期目)事業対象エリア



2014年度(2期目)事業対象エリア

※ 2014年度は、両方を対象として活動しています。

地図:ガザ地区・ジャバリヤ市役所提供



◆ ボランティア研修1回目:4月

ボランティアには座学研修と実地研修を実施して、知識と技術を身に付けてもらう。写真は座学研修の様子。



(右上) 研修後は、隔週でボランティアとAEI保健指導員が集まり、活動スケジュールの調整、経験共有、技術面での指導を行っている。

(左上) 4月13日～17日にかけて、ワークショップ形式の座学研修を行った。講師はAEI保健指導員。

◆ 家庭訪問・子どもの栄養状態検査：4月～6月

新規家庭の登録の傍ら、事業の始め2-3ヶ月の間に子どもの栄養状態を一律で検査する。そうすることで状態の悪い子を把握、その後一年かけて栄養状態を改善していく。



4月～6月中行われた子どもの栄養状態検査：右) 体重測定、左) ヘモグロビン測定



4月の測定時に見つかったクル病症状の女児の手首。クル病になると、手首周辺が写真のように腫れてくる。



◆ 地域保健ボランティアの現地研修：通年

ボランティアさんは、座学研修を終えると、活動しながら現地研修を受ける。実務レベルでの研修は、即戦力となる人の育成や地域のネットワークに直接的に影響を与える人間関係の構築を目指す。こうすることで事業終了後も活動の持続性が見込める。



左上) ボランティアさんによる家庭訪問と、お母さんへのカウンセリングの様子。聞き出すポイントも昨年よりのを得てきた。



右上) 身長を計るボランティアさんたち。昨年よりも随分手馴れてきた。

◆ 子どものフォローアップ検診：通年

事業期間を通じて、4-6月に実施した子どもの栄養状態検査で結果が悪かった子どものフォローアップを家庭訪問を通じて行う。



左上) 5月後半、対象者の自宅にいる子どもたち。この家族だけで子どもの対象が11人と多数。ガザでは人口爆発も問題になっている。幸いこの家庭では初期貧血以外、大きな問題はなかった。

右下) 兄が採血されているのを心配そうに見守る妹・・・と記録をとるボランティアさん(中央)



◆ 状態の酷い子どものクリニックへの紹介

各家庭でのフォローアップに留まらず、症状が深刻な場合はAEIクリニックへ直接子どもを紹介し、医療的な介入も行う。



左上) 5月にAEIクリニックに紹介された低体重児。貧血、くる病、低体重児等含めて初期症状の子どもが多いが、重度の子どもはクリニックに紹介される。



右上) 2013年度からの継続案件の子どもたち。上の写真は2014年度で4歳になった双子の兄弟、ワシーム君とアフマド君。ワシーム君は低体重が悪化。原因はアメーバ感染による下痢。栄養状態を改善するためには栄養補給だけではなく、衛生に関する知識も必要。

◆ 保健・栄養教育のための意識改善講習:6月

家庭訪問を通じた個別の対応の他に、大衆を対象とした意識改善講習も行う。場所は協力者宅や、CBO、クリニック、幼稚園、モスクなど。



左上)6月、子どもたちに衛生教育を実施するAEIスタッフの様子。うがい手洗いは日本では当たり前だが、そんなことも水が無いガザでは難しく、意識も乏しいのが現状。

右下) 意識改善講習には、任意の女性グループへの連続講習会も含まれる。右下は講習を行うボランティアと話を聞く女性グループのメンバー。



◆ 家庭訪問を通じたカウンセリング



左上) 家庭訪問先での様子。妊産婦には母乳育児を徹底的に教育し、離乳した子どもの母親へは栄養食・衛生に関するカウンセリングを行う。



右上) カウンセリングを受ける母親たちと、カウンセリングを実施するボランティアさん。



左) 配布されている教育パンフレット。

◆ 戦争の開始:7月



左上)7月7日、空爆開始直後の様子。写真はAEIスタッフ自宅裏を撮影したもの。スタッフから提供



右上・下)7月中破壊されたモスクと町の様子。AEIスタッフ撮影



◆ 戦争・暴力の拡大:8月



左上・下)8月、道に散乱する不発弾。AEIスタッフ撮影。このような不発弾はガザ全土で7千発残っていると言われ、現在までに、不発弾によって、10人以上が亡くなっている。



右上・下)8月、破壊された町。AEIスタッフ撮影。今回の空爆により、AEIスタッフ2名の家が全壊、1名の家が半壊、また、AEIスタッフのご家族・親族の15名が亡くなった。



◆ 戦争後：9月－対象地域視察開始



左上)停戦の合間を縫うように、AEIスタッフは事業地を訪問して、様子を聞取りに行った。写真はビルナー ज्याで破壊された家屋。他と比べて被害が少なかったと言われているが、3名の方が亡くなった。

右下2枚)8月、もう一つの壊されたビルナー ज्याの家。AEIスタッフ撮影。



◆ 事業再開への準備:9月



左上)9月13日、ボランティアとAEIスタッフが一堂に会して今後の事業の予定と、事業再開の意志について、確認し合った。

右下)9月23日、もう一度金子が現地訪問をした際、ボランティアに集まってもらう。一人一人話を聞いて、再開する意志を確認。写真は会に集まってくるボランティアの様子。



◆ 事業再開への準備:10月



左上)9月27-30日、ボランティアのための精神ケアセッションを行った。活動に戻るためには、健全な精神と安定した生活が大切。9月後半からはこうしてボランティアと打合せをしながら、事業再開の士気を高めていった。

右下)10月1日のボランティア全体会合の様子。ようやくみんなに笑顔が見えてきた。



◆ 家庭訪問と子どもの栄養状態検査：10月・11月戦争後

(右下)体重を測る男児



(左上) 戦争後、各家庭の被害状況と子どもたちの栄養状態を知るため、10月～11月の間に全ての家庭を対象に再度家庭訪問を実施した。幸い状態が悪化している子供は少なかった。



◆ 保健・栄養教育(意識改善講習):11月



幼稚園における児童を対象とした意識改善講習も11月～再開された。子どもたちは戦争直後笑顔が失っていたが、幼稚園での活動を通じて笑顔が見られた。

◆ 地域健康ボランティアへの座学研修2回目：12月



12月、地域健康ボランティアへ対する座学を再度行った。研修期間は8日～23日で、2つのグループに25時間
にわたって実施された。講師はアズハル大学の小児科医。

◆ 専門家派遣(保健分野): 2015年1月

今期は特に戦争があり、ガザのニーズが目まぐるしく変化した。そうしたこともあり、専門家を招へいし、ガザの保健事業の妥当性と、今後の事業の必要性についても吟味した。



当事業へのアドバイスや緊急支援終了のフォローアップのため、特に戦後における保健事業の在り方と有効性について、慶應国際看護の先生、藤屋さんをガザに招聘した。

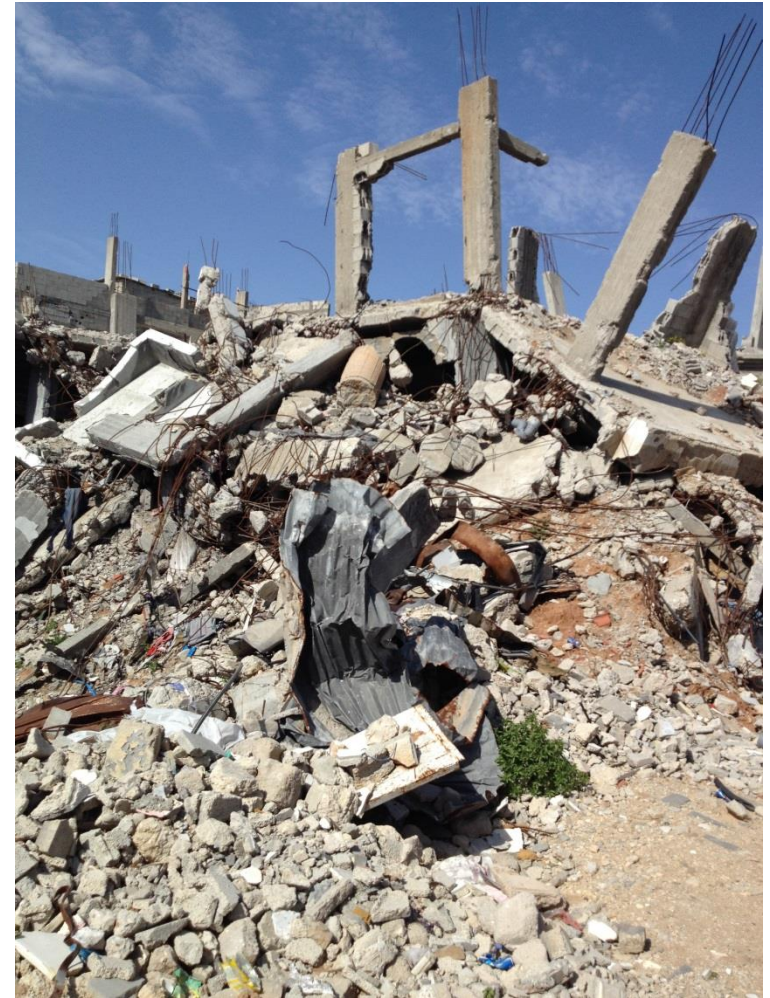
写真は緊急支援を実施したグループとの会談の様子。右側は戦争中攻撃を受けた家。



◆ 専門家派遣(社会調査部門):2015年2月



2月には、別の専門家、特にガザ社会のニーズと当事業のマッチングを見極めるために、外大錦田先生を招聘。事業視察と、ガザのあらゆる組織(難民キャンプの市民が組織する委員会、弁護士、他NGOなど)を訪問、ガザの現状を調査しつつ、ニーズが多いガザにおける当事業の妥当性を見極める作業を行った。



瓦礫の撤去は停戦後8か月経った後も全く改善はしていなかった。

◆ 調理実習:2015年2月



戦争後、意識改善講習の一貫として調理実習も開始された。調理実習は主にCBOで行われた。参加女性は主に子どもに栄養疾病がみられた母親で、その子供たちも参加した。

◆ ドナー現地訪問(横浜西RC): 2015年2月



同じく事業を支援して下さっているアンマンロータリークラブへも表敬訪問(左上)



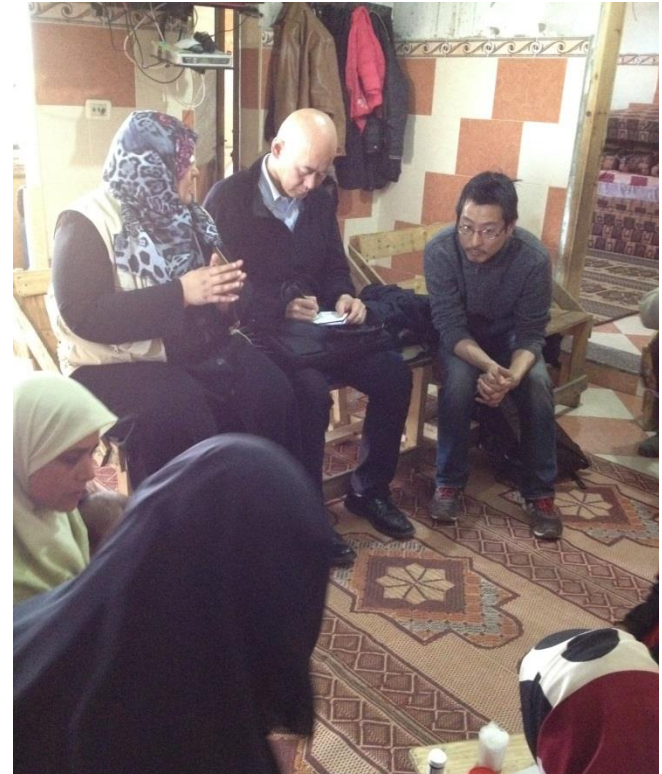
同じく、事業を支援して下さっているベツレヘムロータリークラブへも表敬訪問(右上)



ガザの事業を視察する横浜西RCの野村さん(右下)。ボランティアさんとも意見交換会を行いました(左下)。



◆ 続く家庭訪問と日本からの訪問者：2015年3月



地道に家庭訪問が続く(左上)。日本からは元WHOガザ代表で、
東京大学の神馬先生がガザを訪問。事業も視察して下さり、ご意
見を頂く(右上)。

偶然見つけたバンクシーの絵の前でも写真撮影・・・(右下)



◆ 続く調理実習：2015年4月



左上)実習をCBOや、個人宅で実施することは、協力精神を高め、事業終了後もこうした活動が持続する事を期待している。参加者には、無料で栄養価の高い食事を摂れることと、栄養教育を受けられることで大人気の活動。

右下)笑顔の女性はボランティアのシーファさん。奥の青いヒジャブは参加したお母さん。一緒に調理をすることで具体的な知識と技術を共有できる。

◆ 続く意識改善講習：2015年5月



意識改善講習も精力的かつ継続的に行われていた。写真左上はクリニックでの講習会の様子。妊産婦を対象とするため、産婦人科の待合室で行う。左側に立つのはボランティアのイマンさん。活動して2年目、専門家顔負けの講習会を実施できるようになった。参加女性たちも熱心に耳を傾ける。右上の写真は個人宅での講習会の様子。講習をしているのは、やはりボランティアさん。右下写真は講習会で配布する教材と受益者の方。



◆ ドナー会議(ロータリー): 2015年5月



事業費をメインで支えているロータリーの皆さんが一堂に会してアンマン・ベツレヘムで報告会と次年度事業に関する打合せを行った。報告会には地元パレスチナ人 100人以上が参加。大盛況だった。またガザのAEIスタッフ4人も会に参加。左下の写真はスタッフとロータリーのスタッフと金子。ガザのスタッフが、西岸やエルサレムに来るのは初めて。みんな大興奮だった。



◆ ボランティアさんへのインセンティブ支払: 2015年6月



左上) ボランティアさんへインセンティブを渡す様子。ボランティアさん30人には、年間150ドルのインセンティブを支払っている。一日3-4時間、毎日AEIスタッフと現地で活動を行う人々への御礼としては少ないが、みんなうれしそうだ。

ボランティアさんには、活動を通じて知識と技術を身につけてもらい、将来地域で子どもの栄養を支える活力剤となって欲しいと考えている。



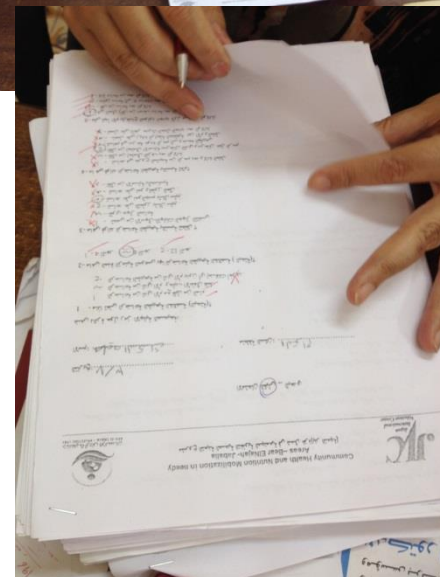
右上) ボランティアさんとAEIスタッフ。家庭訪問でのカウンセリングの様子。ボランティアさんは最近AEI保健指導員なしで、活動をするようになった。

◆ 報告と評価: 2015年7月(最終月)



2015年7月で、長かった2期目も終了。7月には、当事業初めて外部評価作業を行うべく、ガザの評価コンサルタントさんと契約。事業の有効性、インパクト、持続性などについて、2015年末までに評価報告書を出してもらうことになった。左上はコンサルさんとの会議の様子。

一方、2期目の事業終了に伴って、一年間の成果をAEIスタッフとをまとめる作業も行う。プレポストテストの採点、膨大なテスト結果の集計、フォーカスグループミーティングでのインタビュー実施・まとめなどを行い、1年間の事業成果と反省を振りかえる。会計報告も全ての証憑原本を集めるためかなり骨が折れる。



3期目2015年8月~開始しています
これからもご支援をよろしくお願いいたします。



写真は2015年8月に始まった新しい家庭登録で開始された子どもたちの測定の様子

